



100年人生のお金との付き合い方

講演：岡本 和久
レポーター：佐藤 安彦



©2018, Kaz Okamoto, I-O Wealth Advisors, Inc. All rights reserved

ただ今、ご紹介いただきました投資教育家&ファイナンシャル・ヒーラー®の岡本和久です。ファイナンシャル・ヒーラー®と言うと怪しげな感じがするかもしれませんが、長期投資というのは、始めるのはそんなに難しいことではありません。一番難しいのは、続けることなんですね。途中で、暴落や暴騰が必ず起こって、こんなに下がったから止めようとか、こんなに儲かったからここで利益確定をしようとか、いろいろな誘惑に駆られてしまうことがあります。そのような時に本当に大事なものは、「こういう事はあるんですよ」と、ひと言かけてあげる、そういう役割の人間です。要するに、



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

「そんなに心配しなさんな。そんなに慌てなさんな」という事を言ってあげられる、そういう存在になりたいと思い、投資家に癒しを与える人間ということで、ファイナンシャル・ヒーラー[®]と、10数年前に勝手に名乗り始めて、そこからずっとそういう活動をしています。

私は以前、100歳までの長期投資という本を書かせていただきました。最近盛んに「100年人生」みたいな話を耳にしますが、私がこの本を出したのが、2007年で今から11年前なので、「やっと時代が追いついてきたな」と、実はほくそ笑んでいます。もっともこの本では人生100年であってもお金の困らないためにどうしたらよいかということを書きました。今日は、少し視点を変えて100年間の人生を通じてのお金の話、人生のそれぞれのステージでどんな風にお金と付き合っていたらよいか、そんな話をこの意義あるイベントの冒頭で伝えることができればと思っています。

皆さんの人生の目的はなんですか。朝起きたから今日も生きているということではないですよね。では、お金持ちになるためかと言われると、皆さん決してそうだとは限らないですよね。では、偉くなって威張りたいのかということ、それも何か違いますね。究極、我々は何のために生きているのか、「しあわせ持ち」になりたいからでしょう。しあわせになりたいから生きているんですね。それが人生の目的です。別にお金持ちになるために、一生懸命働いたり、生きたりしているのではなく、しあわせになるために毎日を過ごしている訳ですよ。そこで、私は、しあわせになるための6つの要素という話をいつもさせていただいていますので、それを紹介いたします。

1つ目はファイナンシャル・アセットです。お金持ちである必要はないけれど、お金もある程度は無いと困ります。2つ目は、フィットネス。健康です。3つ目は、ファミリー。家族です。4つ目はフレンド、友達や交友関係です。5つ目は、ファン。楽しみですね。最後の6つ目は、フィナンソロピー。社会貢献です。全て「フ」から始まるので、「富」という字をあてて、「6つの富」と言っています。できるだけ、この六角形のバランスが取れていて、外側に大きく広がっている方が人間は幸せであろうと、そんな風に私は考えています。

人生100年、私は大きく3つのステージに分かれると思っています。学びの時代、働きの時代、そして、遊びの時代です。学びの時代というのは、生まれてから食べることや歩くことを覚え、学校に行き、就職をしても最初の5~10年くらいは先輩や上司からいろいろな事を学んでいきます。この時期に何をするかというと、人的資産を形成していく時期です。そして、次の働きの時代に入ってくると、形成した人的資産を活用して、それを金融資産に変えていくんですね。要するに、働いてお金を稼いで、金融資産の形成をしていく時代になります。そして最後の遊びの時代に入っていきます。遊びと言っても、家でゴロゴロしたり銀座で豪遊したりとかではなく、自分が一番やりたい事をやっている、それが世の中の役に立って、誰かのためになって、みんなに喜ばれる。これが本当の遊びです。この時代は、それまでに形成した金融資産を活用しながら、生き様を形成していくことになります。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

今日お越しの皆さんの中には、すでに遊びの時代に入っている方もいるかと思いますが、「あのじいさん格好いいな」とか、「ああいうおばあちゃんに私もなりたい」と思われるような存在になる。生き様を見せてあげる、ロールモデルを見せてあげる。それで、それがどういう風に活用されるかですが、実は、次の世代の人的資産の形成に役立っていくんですね。こう考えると人生は面白いものです。人的資産から金融資産、金融資産から生き様と変化するんですね。それぞれ形成と活用を繰り返して行って、ずっと世代を超えて繋がっていくことになる訳です。

<学びの時代のお金との付き合い方>

さて、最初に学びの時代でのお金との付き合い方をお話しします。これが一番基本的な部分で、最重要です。お金ってどうして大事なのでしょう。お金が無いと何にもできません。何も買えません。でも、大金持ちになっても、無人島で一人で暮らしていたら、お金にはほとんど意味がありません。そうすると、お金は、結局、自分の欲しい物と交換できるから価値があるんですね。交換によって、満足感や幸福感を得ることができるから、自分の持っている大切なお金を相手に渡してあげるんですね。お金を一言で表すとしたら、それは「感謝のしるし」と、私は思っています。お金のイメージってあまり良くないのですが、全てお金は感謝のしるしだということから、改めて全体を構築し直してみると、ずいぶんイメージと違う姿が見えてくると思います。

次に、働くってどういうことでしょうか。働いてお金を稼ぐにはどうしたらよいのか。それは人に感謝される事をすればいいんだと思います。六つの富でいえば、働くということは、社会貢献であり、同時に自分にとっての楽しみであり、みんなから感謝されてお金が入ってくる、これが働くということです。仕事というのは、仕える事と書きます。仕えるというのは、自分より上位のものに奉仕することです。では我々にとって、上位とは何でしょうか。それは世の中です。世間だと思えます。世の中にとって良い事をする、その結果としてみんなから感謝されてお金が集まってくる、それが自分にとっての喜びであるのです。そして、そうして集まったお金をどうやって使っていくか、これが金使いの王道なんです。私が提唱する、「ハッピーマネー[®]4分法」という考えになっていきます。

今日は、ブタさんの形の貯金箱を持ってきました。このアメリカ生まれのブタさん、ピギーちゃんという名前です。普通の貯金箱は、お金を入れる穴が1つですが、これは、背中に4つの穴があり、胴体も4つの部屋に分かれていて、それぞれの部屋が4本の脚に続いています。この4つの部屋は、SAVE(ためる、貯蓄)、SPEND(つかう、消費)、DONATE(ゆずる、寄付)、INVEST(ふやす、投資)と名付けられています。これはアメリカでは、3歳の子供から使っている教育玩具です。アメリカの子供たちはお小遣いをもらうと、今月はどれくらい「つかう」に入れようか、とか、どれくらい「ためる」に入れようかな、などと考えるようになりますね。お金の使い道について考えるトレーニングになると思います。そういう教材です。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

これにどんな効果があるかという、「つかう」というのは、今の自分が喜ぶためなんです。そして、「ためる」というのは、少しだけ先の自分が喜ぶため。お金を今、使いたいのをがまんして貯めてゆき、大きなものを買くと、より喜びが増しますね。「ゆずる」は、自分が喜ぶだけでなく困っている人も喜ぶ。そして、世の中のためになる。最後に「ふやす」です。いま自分が必要としないお金を、いまお金を必要としている人や会社に使わせてあげる。そしてその人がそのお金を使ってビジネスの種を撒いて、それがみんなに喜ばれるよう

な、世の中の役に立つような会社に育ち、みんなから感謝されてお金が集まってくる。その集まってきたお金の一部分が、ずっと将来の自分の元に戻ってくる。これが「ふやす」ということです。



お金はこうやって増えるんですね。投資というのは、1,000 円で買った株が 1,100 円に値上がりして儲かったではないんです。投資というのは、お金を払って保有した資産が付加価値を生み出し、その結果としてお金が増えていくんですね。大企業、トヨタ自動車であれ、パナソニックであれ、大きな企業のほとんどが、こういった所から始まっていったんですね。子供たちにもそれを教えていかないといけません。大人の方にもそれを知っていただきたいと思います。ですから、株価の動きというのは、マイナーな表面的な問題なんですね。表面の波のようなものです。本当に重要なのは、お金が世の中で、ぐるっと回って使われているのを知ることなんです。表面の荒波ではなく、深海の潮流に資金を投ずるのが投資です。そのためには意識の空間軸と時間軸を拡大することがカギです。

お金と投資を通じて学べることは、お金のご縁で、世界中のいろいろな人とつながっていることがわかります。コートジボワールなどの暑い国では、子供が一生懸命カカオの実を採っています。それが次々と加工されて、それが我々の手元に1枚 100 円ちょっとの板チョコになっていますね。お金がこういうご縁の繋がりを可能にしているんですね。

それから、投資というのは、基本的に時間の使い方です。時間をどう使うか、これはどう生きるかということになると思います。お金と投資のことを深く考え、深く勉強をしていくと、我々、ご縁のネットワークの中でどうやって生きていったらよいのか、そういう事に気が付くようになると思います。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

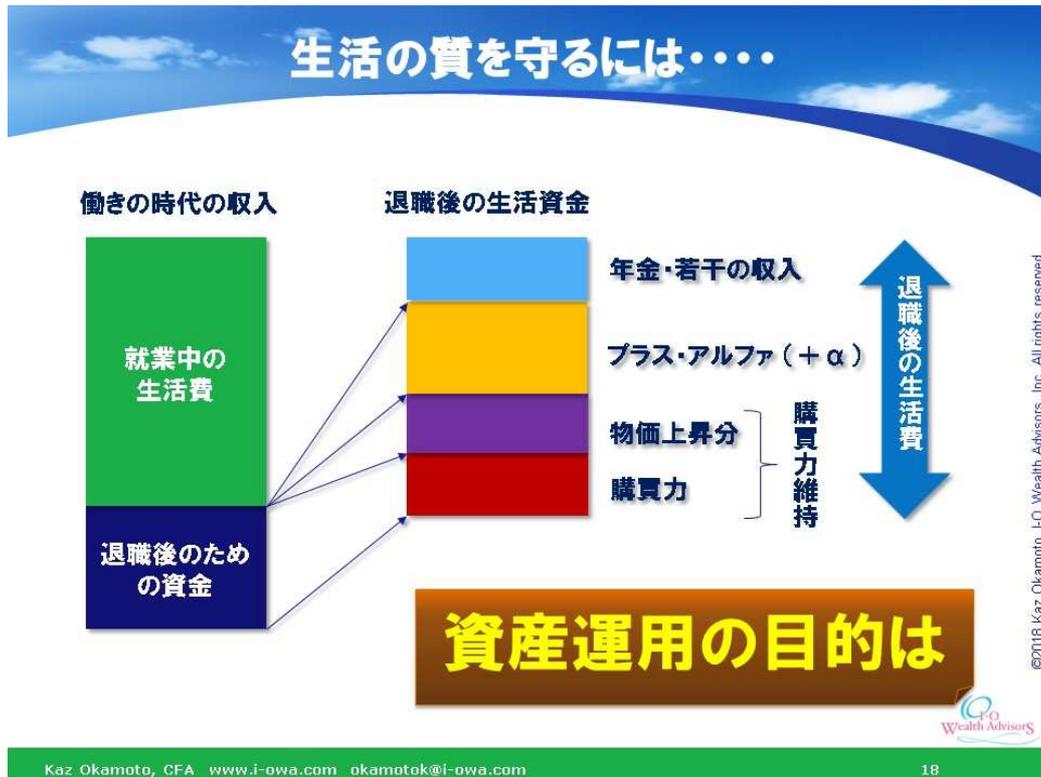
<働きの時代のお金との付き合い方>

働くということも同じです。自分のためだけに働くのではなく、会社のためにも働いているし、同時にお客様のためにも働いている。そしてそれが世の中のためになる。近江商人の三方よし、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の、世間のところまでいくこと。働くというのはそういうことなんですね。世の中をみんなで良くするためにみんなで働いて、みんなに感謝されて、そしてお金が自分の所に入ってくる。これが仕事ですね。

働きの時代のお金とどう付き合うか。最も大切な事は、「将来の自分は今の自分が支える」ということです。「いま貰っている給料は、今の生活費の分だけではないですよ。今の生活費と退職後の生活費の両方合わせたものが、今の給料です」と言うとみなさん、びっくりします。当たり前の事なのですが、これを言うとショックを受ける方もいます。昔のように、年金がたっぷり出ていた時代であれば、こういう事は考えなくてよかったのですが、これからの時代を考えると、やはり将来の自分は、今の自分が支えるより仕方がないですね。

投資というと抵抗感を持つ人も多いと思います。すごく短い間に売ったり買ったり、少ない銘柄を売ったり買ったり。これは投機なんです。でも、短期の個別銘柄投資をしていたところに、いろいろな分析を加え、分散投資を検討し、そして自分の全資産をどうやって管理していくかという資産運用に繋がっていく、これが、時間と空間の軸が拡大されたものになっていくということです。

退職後の最大のリスクは、生活の質の大幅な引き下げです。幸福感が大幅に無くなってしまうことです。これが最大のリスクですね。今、働きの時代である一定の収入があるとします。緑の部分で今の生活をして、青の部分は将来のためにそのお金を取っておくとします。そのお金を使うのは、30~40年後、もしかしたら50年後かもしれません。それだけの期間をかけると、やはり物価は上昇します。物価の上昇を考えると、実質的には緑の部分が急に赤のようになってしまいます。物価が上昇するのでお金の価値が減ってしまうのです。これはかなりキツイと思います。せめて物価上昇並みくらいに、増やしていったらどうか、価値は保存されて購買力は維持できますよね。ただし、緑で生活していたものは、半分くらいになってしまう。これも寂しいですね。こうならないためには、物価上昇+αくらいの利回りで増やしていきたいですね。それに、若干の年金やアルバイトや、どこかのアドバイザーになるなどの仕事をして収入を得ることができれば、退職後も生活水準をそれほど落とさなくても暮らしていくことができるわけです。これでハッキリと分かる事は、資産運用の目的とはなにかと言うと、私は、「購買力の維持+α」だと思います。購買力を維持するだけではちょっと足りない。だからそれに+αが必要なのです。



皆さんは銀行に預金されていると思います。では、銀行預金は、いざという時のためにどれくらい必要か。これに対して、1年という人もいますが、これをやろうとするとなかなか大変です。月30万円稼いでいる人が、月々3万円貯めたとして、360万円になるには10年掛かってしまいます。その間、お金を増やす上で最も重要な時間という貴重な「資産」を失ってしまうことになります。時間こそ個人投資家が持っている最大の投資の武器なのです。その武器が失われてしまう。

ですから私は、銀行預金は1ヶ月分程度でよいと思っています。1ヶ月分貯まったら、預金に回していたお金を、そのまま投資に回せばいいんです。積立投資に回せばよいのです。これをずっと、ずっと続けて、定年退職を迎えるまで、リタイアメントを迎えるまで、ずっと続けたらよいのです。できれば少しずつ積立額を増やす。そして退職する時に、退職金は全部、公社債を買う。こうすると、ほぼバランスの取れたポートフォリオになるんですね。

あとは、これを少しずつ取り崩していけばよいのです。とにかく難しいことは何にもないんですね。ただただ、ひたすら積み立てていく。30年40年50年、積立を続ける。それだけです。「毎月いくらずつ貯めたらよいですか？」という質問を受けて、いくらですと言っていても意味はないんですね。なぜかと言うと、これは皆さん次第だからです。だから、出来るだけ一生懸命働いて、出来るだけ節約して、出来るだけ投資に回す。これしかないです。最大限やってください。その結果は、皆さんが退職したあとに分かることになると思います。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

収入－投資＝支出という方程式を意識してください。それから、「退職した時にいくらあったらよいですか？」という質問もあります。3,000万円だとか5,000万円だとか1億円だとか言われることがあります。これも意味ないです。そうなるかどうか、3,000万円だと言ってみても、実現するかどうかは分かりません。つまり、最大限の努力をして、その結果として退職をした時に持っている資金で幸福感を最大化できるような生き方をすれば、仕方がないのです。それだけです。お金の呪縛から開放されてください。今あるお金を最大限、幸福感に変換していけば良い。それだけのことです。

何にどう投資するのか、これは簡単です。全世界の株式インデックスファンドです。これに若い時から積立投資をして、相場に惑わされずに絶対に止めない。これが一番難しいことですがまた一番大切なことです。資産運用でも意識の拡大が必要なのです。空間軸を最大限まで広げた投資対象は、全世界のグローバルなインデックスファンドです。その上で時間軸を延ばして、長期間、積立投資をひたすら続けていく。それでマーケット変動に惑わされない。

＜遊びの時代のお金との付き合い方＞

いよいよ遊びの時代の話です。何のために働いているのかを考えてみましょう。仕事には社会貢献とお金と楽しみの要素があると言いましたね。働いているうちはお金が重要性を占めています。定年を迎えてから完全に仕事から離れる10年くらいは、社会貢献と楽しみとお金が1/3ずつくらいになります。リタイアメント後は、お金の要素はかなり小さくなって、社会貢献と楽しみが主になってくると思います。

今ある資金をどうやって取り崩していったらよいのか、これも私は極めて単純に考えています。今ある資産の時価の残高を、寿命を100歳までと考えると、例えば70歳の人であれば、30で割れば1年分が計算できます。翌年は、価格が変動して残高が変わっているので、新しい時価残高を29で割ればよいのです。ここでも、いくらお金がないと自分は不幸になるんだというバカな考えはやめて、あるお金で最大限に幸福感を高める、それしかないですよ。で、そうしていけば、そんなに不幸な人生になりはしないです。



私がここでひとつ提案したいのは、70歳、80歳になったら、100年投資を考えていただきたいという事です。「え？残り少ない人生なのに100年かよ」と思うかもしれませんが。要するに、自分の人生



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

が終わった後も、志を込めて応援しようと思う企業、これは個別企業になりますが、自分がこの会社を応援したい。この会社は世の中を良くしてくれる会社だから、自分の資金で買って置いて、何世代も先まで保有して置いて貰いたい。そんな気持ちを込めて投資をしていただきたい。

その場合の銘柄選択には、成長力、技術力、人、組織、文化いろいろな観点があると思いますが、今日はあまりそれについてお話しできません。また、別の機会にお話しできればと思います。とにかく長期投資というのは、個別銘柄に対して長期投資をするのであれば、人の一生では短過ぎると思います。孫の代、ひ孫の代、更にその先。あるいは信託のスキームを使うという方法もありますし、どこかのNPO法人に寄付をするとか、いろいろな形があると思いますが、とにかく気持ちを込めた投資をするということ。お金で思いを未来にまで届ける。良い社会を創ってくれる企業を投資で応援する。そして、寄付で「利他のリターン」を得る。そして永代投資ですね。企業と人材の育成支援、将来世代のための資金を残す。つまり、時間的な制約のない「永代」の投資です。永代投資というのは、志の投資ですよ。個別銘柄の投資というのは、志を投げる。資金に志に込めて投げる。これが「投志」です。

今日、いろいろなお話をしましたけれど、皆さん集まって、お金のことを勉強されるのはとても大事です。ただ、重要な事は、我々の目的はしあわせ持ちになることですし、そのしあわせ持ちになるために、資産の運用も上手くいくために、何が重要かと言ったら、やはり我々自身が小さな箱のなかに閉じこもっている自分というものを解放して、意識を拡げて時間軸と空間軸を大いに延ばして、広い視野で長期的な視野で物事や人生を考えるようになればいいのです。それが、しあわせ持ちへのロードマップだと思います。

ご静聴ありがとうございました。

